

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社 T&T		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 高原の家かわうち		
所在地	福島県双葉郡川内村大字下川内字田ノ入 18-3		
自己評価作成日	平成25年6月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の職員を採用し、馴染みの関係のなかで、「利用者本位」に家庭的な雰囲気、生活できるように「異体同心」を理念に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員を大切に、意見を積極的に取り入れ、向上心を持って働けるように努めている。重度化した場合における(看取り)の指針をわかりやすく作成し、利用者・家族の要望に応えられるようにしている。家族・村役場・地域の方々と協力・連携し、震災後避難を繰り返しながら、利用者本位の生活が出来るようケアにこころがけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人がそれぞれ役割を持って家庭的な環境で日常生活が送れるよう「利用者本位」「地域密着」を基本に理念を掲げている。 家族が見られる所に理念を貼り、意識して実践につなげられるように努めています。	管理者・職員全員で、理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアについて統一を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仮設住宅の為、地域の方々とのつながる機会が少ないが、散歩中に挨拶するなどの交流を図っている。	避難生活なので地域の方々との交流はむずかしいが、地元の方や役場の方が訪問してくれたりしている。利用者は、慰問の方が継続的に訪れるのを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの認知度は高まってきているが、仮設住宅に住んでいる為、地域の方々と触れ合う機会がほとんどない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いわき市へ避難し、仮設住宅に住んでいる為、開催が情况的に難しいです。	運営推進会議を開催することはむずかしい状況にあるが、サービスの向上に結びつく会議が出来るよう検討している。	参加メンバーにこだわらず、呼びかけて開催できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括のケアマネ訪問の際に情報交換を行っている。 また、入所等に関連した連絡や状況報告などで連絡を密にしています。	日頃から村役場と密接な情報交換や連携が行われている。震災時は適切な判断や、援助を受けることができ、利用者の生活を守る連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を設け、ミーティング時にケアに対して、事故予防を検討しています。	身体拘束はしないという考えを持って、ケアに取り組んでいる。自分が身体拘束されたらどんな気持ちになるか体験したことを、勉強会で話し合いケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていない状況である。職員間で言動等に十分注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も勉強の機会を設け、必要に応じて活用できるよう体制を整えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、家族に十分な説明を行い理解を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、状況を申し送るとともに、家族の意向、入居者の意見等を伺う機会を設けている。	家族の方の相談や意見を、気兼ねなく言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見は職員全員で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りなどの機会に相談や提案する機会を設けて頂き、ケアに反映させている。	日常的に管理者と職員は、自由に意見の交換ができています。まず実践し検討しながらケアにつなげていくという考え方を持って取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保や有給休暇が取得できるような環境作りなどで、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの際に、研修報告の機会を設け、職員全体で勉強する時間を設けている。 また、積極的に研修を受ける機会を多く設けて頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の広報誌が送られてくることがあるが、仮設住宅に住んでいる為、同業者と交流する機会がほとんどない状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施し、本人、家族の要望を聞き入れ安心した生活が送れるよう、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際、家族が困っている事、要望を聞き、それに合ったケアの実施に努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、必要としているサービスを見極めケアにあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人が役割を持って家庭的な環境で生活ができるよう信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の意向を踏まえたケアができるよう、支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	避難している為、馴染みの関係といったものが難しい状況である。時々、他入居者の面会がてら違う棟にも顔を出してくれる方がいます。	近くの美容室の方と馴染みの関係ができてきている。家族・親戚の方や仮設住宅に住む方が、訪問してくれている。隣接するグループホームの利用者同士の交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔からの知り合い同士がお互いに行き来をして、触れ合う機会があったり、お隣同士会話するなど触れ合う場面が多くあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設へ訪問したり、家族等からの相談支援も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人じっくりと話す機会を設け、希望や意向の把握に努めています。	表情を見ながら、ことばかけや話し方を工夫して本人の意向を把握するようにしている。動物に話しかける利用者の思いを職員がくみ取り、意思の疎通が困難な方には、あきらめないで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、家族、知人等より情報を集め、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの聞き取りから、心身状態を把握し、出来る所は出来るだけ、自力で出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで課題やケアについて話し合い、それぞれ話し合いの結果がケアに反映されるよう、介護計画を作成している。	本人・家族と日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き介護計画を作成している。利用者の状況に応じて、職員のアイデアを取り入れ、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や送りノート使用し、職員間で情報共有している。 また、ミーティング等を通し個別の実践対応に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夫が入居となり、妻が日中一人である事から、妻に対しても支援が必要な状況となり、今現在、デイサービスの申請を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難している為、馴染みの店へ行ったりする事が困難な状況であるが、近場の美容室を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視し、かかりつけ医を決めています。定期的な受診で医師への相談、連携を図っています。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診している。避難していることから、家族が同行できないときは職員が代行している。結果は家族に知らせ、情報を共有し、受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングや口頭で看護師へ申し送り、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、様子を見に行った際、状況を伺ったり、ホームでの様子を伝えるなど情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、看取りについての説明、意向を確認しています。	重度化した場合における(看取り)の指針を契約時に説明している。本人・家族の意向をふまえ医師・職員が連携をとり、安心して終末期を迎えられるよう話し合いながら取り組んでいる。管理者は、職員が不安になったり動揺しないよう話し合いを重ね、本人・家族への支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習に参加し、急変時の初期対応や応急手当を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力を得て、夜間想定で避難訓練を実施している。出火時の初期対応が全員出来るように努めている。	訓練時に避難経路の確認や方法を話し合っている。職員が近くの仮設住宅に住んでいるのでこころ強く、安心している。	近隣の方々や仮設住宅の方へ、避難訓練に参加と協力の呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人を尊重し、プライドを傷つけないような声掛け、言動に十分注意している。	生活暦や職業暦を把握して、尊厳を損なわない話しかけをこころがけている。利用者と同じ目線で、否定しないで話に耳をかたむけ共感し、声のトーンなどを変え寄り添う対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと会話ができる機会を設け、自己決定が出来る環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「やりたくない」と訴えている時には無理に強制せず、個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば美容室でパーマや白髪染めをしたり、個々に好みの服を着たりとおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会のご飯作りやおやつなどホットプレート使用し、一緒に作る機会も時々ありました。また、時々フキの皮むきや野菜の皮むきも手伝って頂いています。	利用者の希望や好みを取り入れたメニュー作りをしている。食事の準備など、コミュニケーションにつながるよう、できる範囲でできることを、無理強いないで手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせ込みや嚥下状態に合わせ、食事形態を見直ししています。食事摂取量のチェックを行い、摂取量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は外し、歯ぐきや舌を磨いて頂く。介助の方はスポンジブラシ使用し口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でトイレ誘導したり、おむつの方も、排便間隔を見てトイレ誘導し、排便促しています。	一人ひとりの自尊心を配慮しながらサインを把握し、トイレ誘導をしている。失敗したときは、周囲に気づかれないように、何気なくやんわりと声掛けし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操などの運動も取り入れ、おやつ時には、牛乳やヤクルトなどの乳製品を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴間隔を見ながら、入浴者を決めますが、要望があれば、入浴できるようになっています。	本人の希望や体調に合わせて入浴を決めている。嫌がる人には、声かけに工夫しながら入浴の雰囲気作りをしている。入浴をとおして、リラックスした雰囲気の中で利用者とコミュニケーションができ楽しい入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラジオ体操やボール運動、散歩などを通して体を動かすとともに、昼食後臥床を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬説明書を綴じ、職員全体で共有しています。薬の準備には二重チェックをし、服薬の際には、誤薬を防ぐために複数人で関わらないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を生かした貼り絵や散歩などで気分転換をしたり、希望があれば嗜好品をおやつ等に取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、出かけられる範囲で外出したり、外食などに出かけています。避難している状況から、地域の方々と協力しながら、外出する事は困難となっています。	二本松の菊人形や平田村の芝桜等、出かけられる範囲で工夫しながら外出の機会を増やそうとしている。菜園での野菜の収穫や、ベンチでの気分転換など、出来るだけ外気に触れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理能力に応じ2000円～3000円程度所持することが出来るが、外出時に自分のお金で買い物することは、ほとんどありません。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には、職員が電話をかけ、そのあと本人へ代わり会話して頂く。手紙のやり取りも自由にできるようになっています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>同じ木目のドアで間違いやすい為、トイレとわかる目印を付けています。 また、花や季節感を感じる飾りつけをしています。</p>	<p>利用者手作りの、季節感あふれる作品が飾られている。採光や風とおしがよく、利用者はゆったりとくつろいでいる時間が多く、居心地の良い共有空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>仮設住宅の為、共用スペースはホールですが、気の合った入居者同士、居室の行き来をしています。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている</p>	<p>孫や家族との写真を飾るなど落ち着いた雰囲気の中で、安心して生活できるような工夫をしています。</p>	<p>家族が、花を飾ったり部屋を模様替えしたりしている。なじみのものを持ち込んで、居心地よく安心して生活してもらえるよう支援している。職員も使いやすい部屋作りを配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の居室に名札を付け、自室が分かる様に飾りつけをしている。 また、トイレには「トイレ」と分かるよう目印をしています。</p>		